

棚田を復活させた酒蔵のおはなし

長岡市栃尾にある「越銘醸」は、高齢化のため担い手がいなくなった棚田を引受け、酒米「五百万石」の栽培に着手しました。農家のアドバイスを聞きながら、昨年の秋に収穫。この5月に純米大吟醸「ドメーヌ越の鶴」の発売にこぎつけたそうです。完成した商品は精米歩合50%、アルコール度数16度。720ミリリットル入り1600円、1・8リットル入り3200円(税別)と良心的な価格です。

地域のために、自ら棚田の再生にチャレンジした同社の心意気は素敵ですね。

復活した棚田の風景を思い浮かべながら、おいしいお酒で晩酌してみたいはいかがでしょうか。

お問い合わせ：越銘醸株式会社：0258(52)3667

「Eco列車でいこう！」～第108回～ 台湾「環島」の旅！（前編）

（CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！）



仲間達と総勢7人で台北にやってきた。1日目の夜、みんなで夜市の食堂で酒を飲み、料理を食べて盛り上がった。台湾は3度目だが、どこで何を食べても安くておいしい。よく飲んでよく食べても2000円もあれば十分。においと名前が敬遠していた「臭豆腐」も、実際に食べてみると「やみつき」になる味でおかわりをした。

曇り空の2日目。今日は自由行動だ。一人で6時前にホテルを出て、足早に台北駅に向かう。「三越」などが軒を連ねる繁華街の大通りから、一本中に入ると生活のにおいがして楽しい。

台北駅のセブンイレブンで、面白いデザインのコーヒー牛乳やヨーグルトを購入し、地下ホームから6:50発の特急「ブユマ号」に乗車する。今日は台湾一周(環島)を実行する日だ。どんな旅になるだろうか？

出発前にインターネットで指定席券を買っておいたので、指定された2号車の窓側に座った。となりは台湾人のお父さん。家族5人連れのような。日本人は乗っているのかどうかわからない。

電車特急「ブユマ号」は台湾の西海岸を高速で飛ばす。台湾は九州と大きさも地理も良く似ている。台北が福岡(博多)だとすると、特急は大分・宮崎方面に向かっている。

車内販売で駅弁を売りにきたので購入する。価格は60元(約220円)で、白米の上に骨付肉、煮卵、ハム、高菜が乗っており、おいしく食べた。

台湾の地勢は厳しい。最高峰の玉山は3952mで、富士山よりも高い。急峻な山々から川が流れ、広い扇状地をつくり、町が広がっている。そんな地形をくりかえしながら、北回帰線を越えて、定刻11:04に台東に到着した。(九州でいうと宮崎的な場所である。)

蒸し暑い台東駅の改札を通過して、中心街へ向かうバス乗り場に行った。バスが待っていたので、行先を確認したいが運転手は英語が通じない。運転手のカタコトの日本語で「まち(街)」という単語が聞き取れた。

無事に台東の中心街に到着。台東はフルーツの宝庫だ。スイカにパッションフルーツ、パイナップルなどを売る屋台が軒を連ねている。街を歩いていると、「かき氷屋」があったので、身振り手振りで注文し、フルーツの乗ったかき氷を食べた。シロップが甘すぎるが、ますますおいしい。

次の列車まで時間が十分あるので、床屋に行った。もちろんここでも日本語は通じない。(後編につづく)



【6月3日(日)】

台	北	6:50
台	東	11:04
		16:00
枋	寮	18:21
		18:28
新	左	営 19:44
左		営 20:15
台	北	21:54